

## 研究成果報告書

(ふりがな) うしやま はると  
氏名 牛山 晴登  
所属 刈谷市立刈谷東中学校 教諭  
修了年度 平成23年度 教科・領域教育専攻芸術系(美術)コース  
研究テーマ 「自分の感性に自信をもち、創造活動に没頭する生徒の育成-「対話」を重視した美術科授業のデザインと実践を通して-」

## 1 はじめに

本校の生徒は学習態度がまじめで、授業中静かに作品を制作することができる。しかし、自分の作品を人に見られることに抵抗感を感じているのか、席を離れる際には作品を伏せてしまう生徒が多い。そのため、表向きは制作に集中しているが、自分の感性に自信をもって制作に没頭できてはいない状態にあると言える。本実践での対象となる中学校2年生の生徒は、社会的な関心が深化し、他者との関係性の中で、個性や自己の内面性に対する意識の高まりが見られる時期である。よって、「対話」により他者から自分の感性や作品の価値を認めってもらう機会のある美術科授業のデザインをすることは、とても重要である。

## 2 研究の方法

本研究は、4人グループを基本に展開する。これにより、生徒同士のかかわり合いが生まれ、アドバイスし合いながら制作を進めたり、互いの価値を認め合ったりなど、互恵的に制作を進めることができる。グループ構成は、様々な感性にふれることができるように、男女混合の4人グループにする。また、作品完成後には市の美術館や地域のギャラリーなどで作品を展示して、より多くの他者に作品のよさを共感してもらう機会をつくる。

本研究では、自作の美術アンケートによる量的な検証と、抽出生徒の感想の変容による質的な検証を行い、成果と課題について考察することにした。

## 3 研究の実際

本題材の主題は、生徒の夢とした。3月に行う立志式という行事の中で自分の夢や目標をランプシェードのデザインに込めて、それを灯して自分で立てた志を誓うことを目的とした。

はじめに、自分の夢を文章でまとめた。そして、自分の夢を記した文章からキーワードとなる語を抜き出し、オノマトペに例えた。生徒たちは抽象的なオノマトペを使ったことで、自分の想像や空想を広げることができた。その後、生徒はオノマトペからイメージされる形や色を使って平面構成し、ランプシェードのデザインを描いた。生徒はそのデザインを基にして、スタンドグラス用の専用ペンで形の輪郭を取り、スタンドグラス用の液体絵の具で着彩した。4人グループで「対話」しながら活動したことで、生徒たちはお互いの技や制作の手順を確認しながら制作を進めることができた。また「いいね」「きれい」「華やか」「魅力的」など、自分の感性や作品の価値を他者に認められたことで、生徒の感想が前向きなものに変わった。

完成後は3つの場に展示をして、保護者をはじめ多くの関係者や、地域の人々に作品を見ていただく機会を設け、生徒たちは作品をほめてもらえて満足げな表情を見せていた。

## 4 研究の成果と今後の課題

「対話」を重視した授業により、生徒は他者から自分の感性や作品の価値を認めてもらえたことで、その後の創造活動に没頭し、自信を得た様子だった。

量的検証・・・1年生時から比べるとアンケートの平均値が上昇した(7.49→8.04)。今後は統計的に本値の有意性を証明していくことが課題である。質的検証・・・生徒は他者「多くの人に見てもらえてよかった」などの感想を残すことができた。校内展示で他の学級の生徒同士が意見を交換できるように工夫するなど、「対話」場面をさらに増やすことが今後の課題である。

